



シュンデンタルタイムズ 10

2021

今月の特集

医療法人になって1年が経ちました

昨年、当院は「医療法人社団Medical Architects」(メディカルアーキテクト)として法人化し、本年10月を持ちまして丸1年が経過しました。医療法人化した思いなども含めて、今月号では、歯科診療所としての考え方などを皆さまにお伝えしたいと思います。



法人名に込めた思い

医療法人の名称は、〇〇会というのが一般的で多く見受けられるのですが、特に制約があるわけではありません。であれば当院の思いを込めた名称にしようと、Medical Architectsとしました。Medicalは医療を指し、Architectsは、建築家、設計者、企画者、創造者の意味を持つArchitectの複数形です。既存の医療体制、技術に満足することなく、“新しい医療環境や、設備、治療法などを正しく提供していきたい”という思いを込めました。

歯科医だけではなく、衛生士・受付・事務方、そして技工士さんなど支えてくれるたくさんの業者さん。そして患者さまも正しい考え方を持っていただきたいと思い、口腔内の環境維持にチームで向き合うという思いも込め複数形にしました。

医療提供環境について

医療技術については、私たちはエビデンス(第三者的な裏付け、証明)に基づいた治療を行っていることを、今までのニュースレターでお伝えしたと思います。

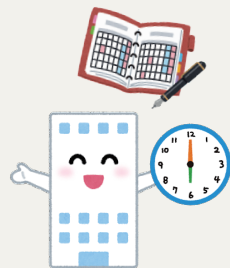
今月は診療所の労働環境についてお話ししたいと思います。

鎌田は、研修医時代、大学院時代、“超”がつくほどのブラックな環境で仕事をしていました。医療従事者というものは、そういう環境で働くことが当たり前だと考えていたのです。家に帰ることもできず、空き時間に勉強し、とにかくテクニックと経験、知識の習得に邁進していました。しかし、休みなく働くと判断が鈍り、最適な治療を患者様に提供できないのでは?という疑問も持っていたのです。



裏面に続く

今では、スタッフには最大のパフォーマンスを発揮させることも、正しい医療のあり方と考えています。そこで労働環境整備も法人化とともにしっかり充実させるべきだと考えました。労働基準法に乗っ取り、残業・有給・労働時間・休憩・拘束時間の管理を徹底し、スタッフが仕事と生活のバランスを取り、労働意欲を最大限引き出したうえで、正しく患者さまに向き合えるような環境整備を行いました。



教育機会の提供

iPhoneで有名なAppleは従業員と顧客に対して「教育機会の提供」という命題を持っています。従業員に対しての教育はもちろん、顧客に対しても教育するというのは、日本企業にはなかなかない発想です。(なので製品には説明書がないとか。)

顧客とのコミュニケーションを通して操作方法を伝えたり、既に利用しているユーザが使い方を共有したりすることで、教育機会が提供できると考えているそうです。最先端のテクノロジーを共有するシステムはまさに私たちの考えと通じるところがあります。

スタッフへの技術教育、患者さまへのブラッシング指導、最終的には、患者さま同士で、ご家族で、ブラッシングはもとより口腔衛生について話し合う機会を持ってもらいたい。スタッフが皆さまの元に最先端の口腔衛生を教育し、届けてくれると信じMedical Architectsでは、今後もスタッフの教育(研修会、セミナーの参加など)を率先して行うように取り組んでいきたいと思ひます。

P2
OPEN!



Dr.Shun's Tweet.



シュンデンタルクリニック

〒041-0802 北海道函館市石川町 461-38 TEL 0138-47-3737

<http://shundc.jp/>